

新型コロナウイルスワクチン予防接種について

■ワクチンの効果と投与方法

新型コロナウイルス感染症の発症を予防します。ワクチンの接種を受けた人は、受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症した人が少ないということが分かっています（発症予防効果は約95%と報告されています）。

○1回目の接種後、3週間後に2回目の接種を行います。

○ワクチン接種で十分な免疫ができるのは、2回目の接種を受けてから7日程度経って以降とされています。現時点で感染予防効果は十分に明らかになっていません。ワクチン接種にかかわらず、マスク着用など適切な感染防止策を行う必要があります。

■接種を受けた後の注意点

○ワクチン接種を受けた後、15分以上（過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー症状を起こしたことがある方や、気分が悪くなったり、失神等を起こしたりしたことがある方は30分以上）、接種を受けた施設でお待ちいただき、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。

○注射した部分は清潔に保つようにし、接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部分はこすらないようにしてください。

○通常の生活は問題ありませんが、当日の激しい運動は控えてください。

■副反応について

主な副反応は、注射した部分の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等があります。また、まれに起こる重大な副反応として、ショックやアナフィラキシーがあります。なお、新しい種類のワクチンのため、これまでに明らかになっていない症状が出る可能性があります。

高齢者と比べて思春期の子ども達、若年成人では接種部位の疼痛出現頻度は約90%と高く、接種後、特に2回目接種後に発熱、全身倦怠感、頭痛等の全身反応が起こる頻度も高いことが示されています（例：37.5℃以上の発熱は20代で約50%、50代で約30%、70代で約10%）。以上のことから、ワクチン接種後は健康観察が必要です。

■予防接種ストレス関連反応について

ワクチンの接種前後に生ずる不安、恐れなどのストレスをきっかけに、接種時の急性ストレス反応（特に血管迷走神経反応）に代表される、予防接種ストレス関連反応と呼ばれる反応が生じることがあります。

※血管迷走神経反応は、ワクチン注射への恐怖心や不安感、あるいは痛みが原因で、気分が悪くなったり、気を失って倒れたりすることです。

(参考)

「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種を生徒に対して集団で実施するについての考え方及び留意点等について」(文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課・厚生労働省健康局健康課予防接種室)

新型コロナワクチン～子どもならびに子どもに接する成人への接種に対する考え方
(公益社団法人日本小児科学会予防接種感染症対策委員会)
URL: http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20210616__corona.pdf

12歳以上の小児への新型コロナウイルスワクチン接種についての提言
(公益社団法人日本小児科医会)
URL: https://www.jpa-web.org/dcms_media/other/Recommendation.21-06-16.pdf

予防接種ストレス関連反応(WHO)
URL: <https://www.who.int/publications/i/item/978-92-4-151594-8>